



TITLE:

居庸關雲臺の保存

AUTHOR(S):

小野, 勝年

---

CITATION:

小野, 勝年. 居庸關雲臺の保存. 東洋史研究 1942, 7(1): 45-49

ISSUE DATE:

1942-05-20

URL:

<https://doi.org/10.14989/138815>

RIGHT:



雲臺拱門眉石の彫刻

# 居庸關雲臺の保存

小 野 勝 年

拜啓 時下愈御健勝の段大慶に存じます。

實は甚だ突然であり、且又或は潛越のことかとも存じますが一筆啓上致し度いと思ひます。夫れは居庸關址特に雲臺（過街塔基壇）の現狀竝保存に關する件に就てであります。

御承知の通居庸關は古來河北と蒙疆との間の最も著名な關所で、其地は察南延慶縣に屬し京包線の車窓より臨むことが出来ます。其處は河を挟み兩側の山岳が絶壁を爲して迫り頗る天嶮であると共に風光も亦秀でた場所であります。道路は南北に通ずるもの唯だ一道で之に跨り城壁を築造し南北に各二重の關門を設けてあります。居庸關の名稱は舊くから存し、其の位置も殆ど變つて居ないと存じますが、現在の城壁は主として明代の修築であると考へられます。此の關内には現在も數十戸の民家が其の略中央に位置して雲臺が築かれて居ます。普通は此の雲臺をば居庸關門の様に考へて居ますが實は過街塔と謂ふ喇



居庸關附近

嘛教に於ける道路の安全旅行の無事を祈る爲の佛塔の基壇の部分の遺址なのであります。

ますが、何時しか破壊され現在の様に唯臺部のみを残して居る有様となつたのであります。諸此の臺は高さ約九米餘り、幅二十八米、奥行十六米で夫れに幅約七米の拱門を開いて居ます。之は白石を刻んで建築したもので上部には欄杆を廻し拱門の部分及拱道の壁面には見事な彫刻があります。今日之が貴重視されるのは主として其の彫刻の見事さと之が示す意義に依るものであります。

彫刻は文字と像と文様等とでありまして、文字は漢字のみならず梵字、西藏字、拔思發字、回鶻字、西夏字

の六體で

經文を刻

み、像は

四天王及

十體の如

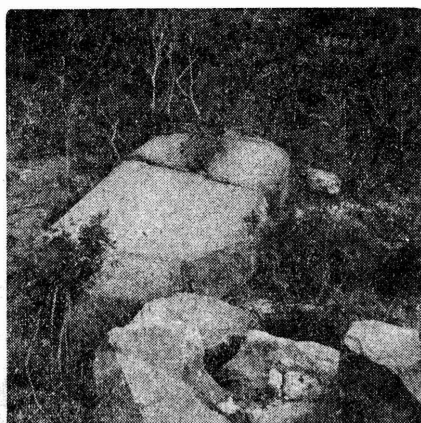
來座像及

千佛更に

又五個の

曼荼羅や

迦樓羅或



臺上の正統十三年の斷碑

此の雲臺も亦今更述べる迄もなく餘りに著名なものでありますが、蛇足迄に申し上げますと、其の着工は元の晉宗泰定三年（二三二六）以前で、完成は順宗の至正五年（二三四五）であります。此の完成の後二十有餘年にして元も滅亡しましたが、之は明代にも尙其の儘存して居たものゝ如く、降つて正統十三年には泰安禪寺と勅額を賜つて居ます。之に依り推測するに臺上には喇嘛式塔のみならず佛堂等もあつたのであるまいかと考へられます。（臺上には正統の斷碑と共に二、三の礎石などあります）夫れが清朝になつてからと存じ

の種類に依り先づ蒙古帝國の國土の廣大と成立とを窺はしめる絶好の資料であり、宗教的には國教であつた喇嘛教及其の藝術を示すものであります。

蓋し蒙古が亞細亞大陸のみならず西歐迄も震駭させた大帝國を建設したのは驚嘆すべき事實であります。然し夫れを示す具體史蹟は今日大都土城址とか上都址だとか全くないではありませんが、實に寥々たるものであります。然るに此の雲臺は宗教的に見ても建築美術、文字等文化的に見ても頗る貴重な記念物でありまして、規模や性質は上記のものと相違して居ますが

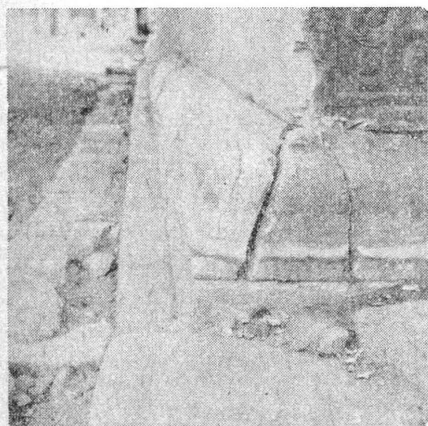


臺上周邊の龍頭の一

は蛇神等を現はし文様は主に花唐草等が飾られて居ます。之等を概括して考へるに、文字

元代の實際を示す史蹟としては匹敵するとも決して劣らないのであります。然も亦保存の點から考へても前者の茫漠たるに比して甚だ纏まつて居るのであります。

近年雲臺の上に電信柱が建てられました。之は汽車中より望見する度毎に美觀上からも、保存上からも常に遺憾として居たことです。之が取除きに就て蒙疆政府に勤務して居る某氏に忠告したこともありまして。然し依然として其の儘放置されて居る様な有様です。之は些細の事柄ですが更に重大な問題があります。



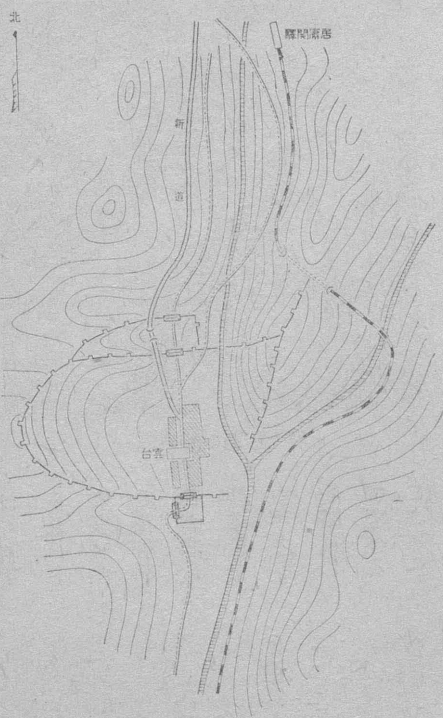
臺上欄杆の基部

す。夫れは蒙疆と河北とを結ぶ大道路が近々完成を見んとして居ることゝ關聯してあり

ます。今丁度居庸關北方の難工事を行ひつゝあります。が、若し此の工事が終ると荷物積載のトラックを初め多くの運送車が雲臺下を毎日頻繁として往來することゝなるのは當然であります。勿論往昔と雖も車馬の往來はあつたのでありますが、夫れは今後想像される頻繁さに比較すれば物の數ではありませんまい。果して然らば、史蹟保存の見地から幾多遺憾な點を生ずることとは火を見るより明かだと考へるのであります。之に關して當局の人々は果して深き理解を持ち慎重に考慮

されて居られるでせうか。

今次の聖戰に於て隣邦の古文化を尊重する方針は上下の一致した態度であります。夫れは又當然かくあるべきで、唯に尊重するのみならず、保存保護の氣運を醸成し指導し實行すること眞に東亞の指導を以て任ずる者のなさねばならぬことだと存じます。勿論新しい建設の爲には時として過去のことを揚棄するも亦已むを得ないことでありませう。然し提棄さるべきだとしても淺薄な認識の下に或は無關心の態度で取扱はれるべきではありませんまい。



居庸關附近見取圖

斯く考へる場合、元が残した唯一にして最貴な此の記念物に對しても甚深な顧慮が向けられねばならぬと思ふのであります。然も此のものは斯うした歴史的或は學術的立場のみならず卑近な意味に於て、觀光的な對象としても充分な價值を有するのであります。即ち支那のみならず、我は勿論歐米人士に迄知られた此の記念物は、聽て事變が治れば事變前に幾倍する遊覽の人々を、附近の風光絶佳な

ると兼併せて招來せしめることでありませう。夫れを思ふと現状は實に寒心に堪へぬものがあるのであります。

願はくは歴史、美術、建築及觀光等に關係される方々、更に又文化政策方面に關心を有せられる方々に依つて豫め有力な意見が作成され、既に過去の記念物たるにも拘らず、尙脈々たる生命を有する過街塔址雲臺の保存に關し、至急蒙疆政府に對し注意を喚起せられんことを。さうした努力は其の昔寺本先生が一箇月近くの間を要して此處に拓本を作成された勞苦に比較すると輕減されたものであり、然も現在の場合最も緊急を要すべきことと存じます。

以上斯うしたことを長々と申上げるのは私の任ではなく、實は餘り好むことでもないのですが、最近調査の爲親しく其の地を訪れ痛感する所があつたので強ひて筆を執つた次第であります。

昨年五月のことであるが、在北京の同人、小野勝年氏は居庸關の雲臺附近で道路工事が行はれてゐることを聞き、早速現場を調査して右の様な私信を内外の各方面に配り保存施設の必要を説いて一般の注意を喚起した。その結果、未だ氏の希望するやうな積極的な施設は行はれるに至つてゐないけれども、蒙古聯合自治政府の小林知生氏の努力により、原田淑人博士等の斡旋もあつて、兎も角もトラツク道路は雲臺を避けて造られることゝなつたといふことであるが、最近喜ばしいニュースである。また政府の手によつて雲臺の基礎的な調査測量や彫刻の完全な拓本の製作等も計畫されてゐるさうである。これを機會に、從來餘りにも有名な割合に、比較的纏つた調査報告なども發表されてゐない居庸關雲臺の、総合的な調査研究が行はれんことを望んでやまない。(T・H)